

憂楽帳:ポルトガルの演歌

高村洋一

ずっと洋楽が好きだったが、最近は気が付くと演歌のCDを買っている。「ポルトガルの演歌」という大衆歌謡のファドも心にしみる。日本を代表するファド歌手、月田秀子さん(千葉県在住)の歌を金沢市の「茶房犀(さい)せい」で聴いた。

ファドは首都リスボンの下町で生まれた。月田さんは人生経験から語りも奥深く、喜怒哀楽を哀愁の漂う旋律で絞り出すように歌う。しゃれが利いた歌もあった。「酔っぱらいとワインの歌」だとか。酔っぱらいが「ワインよ、ワイン。なぜ私を酔わせるのか」と尋ねる。「私を水のように扱う(飲む)人に少し悪さをするだけさ」とワインは答えるのだ。

月田さんは87年、30代でリスボン大学に留学。ファドの女王、故アマリア・ロドリゲスにも認められた。「日葡(にっぽ)両国の友好に貢献した」として、10月にはポルトガルから勲章をもらった。熱烈なファンが多く、作家の五木寛之さんはジョイントコンサートを開き、彼女のための曲「大河の一滴」を作詞したほどだ。

ファドはポルトガル語で「運命」の意味。月田さんのCDを聴いて今夜も友とわが運命を語ろうかな。